

令和3年度 第3回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会会議録

会議名称：令和3年度第3回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会

日時：令和3年12月17日(金)14時～15時30分

場所：古賀市役所第一庁舎4階第2委員会室

主な議題：主な議題：①アンケート調査等の印象について

②子ども読書活動等に関するアンケート調査結果〔概況〕報告について

(1)〈対象〉乳幼児・その保護者

(2)〈対象〉小学生、中学生～「全国学力・学習状況調査結果」を活用～

(3)〈対象〉高校生

③「第4次計画」のページ割(案)について

④その他

傍聴者：0名

出席者：鈴木 章会長 村山 美和子副会長 井手 由紀子委員 草野 三保子委員

園 久恵委員 森中 祐美子委員 山森 直哉委員

以上7名

欠席者：亀川 代志子委員

以上1名

事務局：6名

配布資料：レジュメ

別紙資料①：子ども読書活動等に関するアンケート調査結果〔概況〕〈乳幼児・その保護者〉

別紙資料②：全国学力・学習状況調査結果〔概況〕〈小学生、中学生〉

別紙資料③：子ども読書活動等に関するアンケート調査結果〔概況〕〈高校生〉

別紙資料④：「第4次古賀市子ども読書活動推進計画」ページ割(案)

1 開会のことば

(事務局)

皆様、本日はご多用の中お集まりいただきありがとうございます。

まず、お手元の資料の確認です。(略)以上、4点です。この内、資料①については、最終ページに【自由記載によるご意見】を今回加えております。

本会議につきましては、会議の公開制度に基づき傍聴席を設けております。また、会議の内容につきましては、会議録を作成し、古賀市のホームページに公開いたしますのであらかじめご了承ください。次に、ご発言される際のマイクの使用についてです。お話いただく前にマイク本体のスイッチをONにすると緑ランプが付き録音が始まりますので、点灯したら話し始めてください。話し終わられたら、スイッチをOFFにしてください。お話しされる際、複数の方が一緒にお話しされたり、マイクから離れてお話しされたりすると声が拾えない場合があります。スムーズな会議録作成のためご協力をお願いします。

それでは、レジュメに沿って「古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会」第3回を開催いたします。「1 開会の言葉」を教育部長の横田よりいたします。

(部長)

本日も公私ともご多用の中、ご参集いただきましてありがとうございます。

まず教育部外の業務ではございますが、子ども関連の話題ということで一つご報告です。皆さんもニュースなどでご存知かと思いますが、国のコロナ禍における子育て世帯を支援するための臨時特別給付金についてです。ニュースでは給付方法について報道さ

れておりますが、古賀市では12月15日閉会の議会で、5万円給付の補正予算を上げておりました。その15日の夕方に国から通知が来まして、庁内で慎重な協議を行い、本市議会に急遽臨時議会を開催いただき、追加の5万円給付の補正予算を議会にかけさせていただきます。その結果、現金で10万円が年内に給付できるようになりました。所管は保健福祉部です。ご家庭では様々な使い道があると思いますが、給付金が少しでも子どもの読書につながる消費となればと教育部としては願っております。

では、令和3年度第3回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ

(事務局) 鈴木会長からご挨拶をお願いします。

(会長) 皆さん、こんにちは。私からは2点お話をします。

まず始めは、今年5月の状況を調査した「第66回学校読書調査」の結果についてです。平均読書冊数は、昨年よりも増加したというデータがあるそうです。一方、不読率については低下傾向にある。このような全国における状況があったということが1点目です。

2点目。2019年頃に、情報通信関係の高度化に対応したGIGAスクール構想が出されました。また、読むことに障がいがある方々の読書環境を充実させていこうという姿勢が打ち出され、読書バリアフリー法が制定されました。これからは紙媒体と電子書籍を中心とした電子メディア類、双方のいいところを生かした読書活動が望まれるし、そのように進んでいくのではないかと思います。そういう観点で、この第4次計画策定を進めていくことになると思います。よろしくお願いいたします。

3 協議等 (1) アンケート調査等の印象について

(会長) それでは「3 協議等」に移ります。ここからはレジュメに沿って私が司会進行をいたします。では、「(1) アンケート調査等の印象について」、館長をお願いします。

(館長) 私からは2点お話をいたします。

まず1点目。今回のアンケート調査の結果は3種ありますが、その中の「乳幼児・その保護者」について概観します。この結果では、90%以上の方が読み聞かせをしているという数字が出ています。しかも75%の人が週1回以上ということで、保護者の方々も熱心に読書活動、あるいは読み聞かせをされているという印象を受けました。この背景を想像すると、幼稚園や保育園での活動もさることながら、やはり地域文庫や様々な読書ボランティアの方々の日頃の努力やこれまでの歴史がかなり根づいているのではないかなという印象です。

また、アンケート調査からは、本を選ぶ方法がインターネットなどを活用しているという結果も出ています。やはり若い世代のお父さんお母さんはこういうものを活用されており、先ほど鈴木会長がおっしゃったようなデジタル媒体も、どんどん活用されていく時代になっていくのではないかという印象を受けています。一方、市立図書館を利用しないという方も6割ぐらいおられ、私たちもこんなに多いのかと思いました。理由を見ると、子どもが騒ぐ、あるいは子どもが本を汚すので遠慮してしまうというご意見もあるようです。我々としては、図書館に気軽に来ただけの雰囲気作りなども必要ではないかと考えています。今回のアンケート調査の結果を踏まえて、第4次計画に反映できるものは反映していきたいと考えております。

2点目です。現在、図書館職員が手分けをして近隣の公共図書館の視察に出かけており、糟屋地区の6町を回りました。その中で特に印象に残ったのが宇美町立図書館の取組です。行かれた方もいらっしゃると思いますが、あそこは天井も高く広々とした空間で、非常にいい雰囲気の図書館です。それらハード面もすごいなと思いましたが、学校図書司書と町立図書館司書との連携が非常に細やかだとお聞きしました。例えば、夏休み期

間中、学校司書が町立図書館で子ども達の調べ学習の補助をしたり、町立図書館司書と学校司書との話合いが毎月持たれていたり、ソフト面での取組も熱心で、我々も刺激を受けてきました。今後は近隣の市レベルの図書館にも足を運びたいと思っており、その中で学んだことを今回の計画にも反映できる部分は反映させたいと思っています。

また今回、古賀市の図書館が恵まれているというところもかなり感じました。例えば、先ほど言いました読書ボランティアの方々の方々の非常に力強い活動や、古賀市は生涯学習関連施設が図書館の周囲にゾーンとして集結しているところ、他にも、すぐ横には竟成館高等学校が立地、福岡女学院看護大学も近くにあり、さらにJR古賀駅もすぐ近くです。こういった地の利は、近隣自治体ではなかなかありません。また、これまでの歴史や様々な人材の存在もあります。そういった方々と手を携えながら、第4次計画に盛り込めるところは盛り込んでいきたいと思っています。私からは以上です。

(会 長) ありがとうございます。今の件で何かございましたら。なければ協議を進めます。

(2) 子ども読書活動等に関するアンケート調査結果〔概況〕報告について

(会 長) では、「(2) 子ども読書活動等に関するアンケート調査結果〔概況〕報告について」、事務局お願いします。

(事務局) このアンケート調査は、第4次計画策定の基礎資料とするため、対象を乳幼児、小・中学生、高校生の3グループに分けて、子ども達の読書状況、読書に対する意識、またその変化等を調査するもので、この内、乳幼児と高校生については独自調査を実施し、小・中学生は既に国が実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を活用し分析していくことを、前回のこの会議でご協議いただきました。独自調査の結果は別紙のとおりで、乳幼児では市内保育園2施設の協力の下、142世帯から回答いただき、回収率71%、また高校生は市内の高校1施設・195人からの回答、回収率93%となりました。小・中学生については、「全国学力・学習状況調査」における、読書に関する設問に対して、経年変化、福岡県や全国平均値と比較しながら結果を取りまとめました。

本日の概況報告では、乳幼児、小・中学生、高校生の順に、いくつかの設問ごとに区切って、設問内容と結果から読み取れることやポイントの主なものを読み上げていきます。皆様から感想やお気づきの点の他、現場サイドでお感じになられている事情や対応策など率直なご意見を頂戴できればと考えています。

それでは、「乳幼児・その保護者」から、別紙①をご覧ください。

まず【問1~3】まで進めます。【問1】は「対象年齢」について。今回は、保育園に調査をお願いしましたので、0歳から6歳、兄弟姉妹を含め、バランス良く調査することができました。

続いて「読み聞かせの実施状況、頻度」では、【問2】の「読み聞かせをしていますか」の設問に対し、『関心がありしている』『時間がある時だけしている』更に『せがまれた時だけしている』の3つを合せると93%が読み聞かせをしている状況です。参考までに、糟屋郡内のある2つの町における調査結果では88.5%と88.1%でしたので、比較するとこの割合が非常に高いことが分かります。

【問3】の「読み聞かせの頻度」では、『ほぼ毎日、週に2~3回、週に1回』を合わせると75%が週に1回以上読み聞かせをしていて、『ほぼ毎日』が17%、保護者の関心の高さと熱心が窺えます。

ここまでで一旦説明を区切ります。ご協議をお願いします。

(会 長) 他の地区と比較し、古賀市は読み聞かせが大変進んでいるのではないかと分析です。古賀市では地域の文庫活動が長年盛んに行われており、その素晴らしい実践がゆえに、こういう数字が出てきたのではないかと私は見えています。

何かご意見はありませんか。いいでしょうか。では、次に進めます。

(事務局) 続いて「読み聞かせに使う本」に関して、【問4～5】です。【問4】の「本の調達方法」の設問に対して、『書店やネットで購入する』が最も多く、次に『保育所等施設から借りる』『ブックスタートやセカンドブックの本の利用』と続いています。前回会議の「子ども読書活動の調査結果」において、“保育所等施設における、絵本コーナーの設置やおたよりによる保護者への呼びかけなどの取組”をご紹介しましたが、この熱心さが結果に表れており、またブックスタート事業やセカンドブック事業も一定の評価を得ていることが窺えます。『市立図書館から借りる』は思いのほか低く、この背景には、図書館までの移動の手間、館内での過ごし方や借りた本の取り扱い方、例えば子どもが館内で騒いでしまう、借りた本を汚してしまう等を懸念していることが、この後ご紹介する調査結果からも見えており、市立図書館としての今後の対応について検討が必要と考えています。なお、『地域文庫から借りる』は、調査対象期間が新型コロナウイルスによる活動停止の影響が続いている期間だったこともあり、これまでの活動実績が調査結果に反映されておらず、残念に感じています。

【問5】の「本の情報収集の手段」では、『書店』『保育所等施設』『テレビ・インターネット』の順で多く、保護者が若い世代であることも影響し、様々な媒体から情報収集していることや、保育所等施設による取組の成果が窺えます。『ブックスタートやセカンドブック配布時のおすすめ本の冊子』や『市立図書館からの情報』では、更なる工夫や働きかけが必要であると考えています。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会長) 二重アンダーラインで示されたところが大事な着眼点の部分です。先ほど館長も言われましたが、市立図書館の利用状況のところ懸念部分かなという指摘です。何かありましたらどうぞ。

はい、村山委員。

(村山委員) 自宅で読み聞かせをされている保護者から、「良い本を買ってあげたいが、どんな本がいいんでしょう」という質問を受けることがあります。それを聞き、子どもには買い与えるのが愛情だと感じておられる方が多いのではと思いました。他にも「自身があまり読んできていないのでどんな本がいい本かわからない」と言って本を探しておられる保護者に対応したこともあります。皆さん自分の子どもには本に親しんでほしいという願いを持っておられます。しかし、保護者自身にあまり読書の経験がない場合は、自分がおもしろかった本ではなく、人が良いという本、「いいね」がいっぱいついているような本を買い与えたり読んであげたりしたいと思っていらっしゃるようです。

ここで問題なのは、「なぜ市立図書館に行かないのか」ということです。地域文庫には、もうお子さんが大きくなり要らなくなったということで、捨てるには惜しい本がたくさん持ち込まれます。それで書庫がいっぱいになってしまうような状況もあります。最初は買ってあげたいということですが、その先は図書館の利活用を呼びかけるといった啓発をした方がいいのではないかと思います。

(会長) 読み聞かせに使う本選びの情報提供や図書館利用について、保護者にどう伝えどう啓発していくのかも、策定の中にどう反映していくかが一つの課題になると思います。そういうことを含めてご意見等ありましたら。

はい、草野委員どうぞ。

(草野委員) 図書館の入り口付近に、絵本の選び方や読み方が書かれた、「童話館」や「東京子ども図書館」の冊子が置いてあるんです。ああいう冊子が地域文庫にも地域、保育園にもあって、必要な時に勧められたらいいなと思います。本を選ぶのは私達も悩みますから。その他にも、赤ちゃん絵本のリストを図書館で作っていますよね。あれもたけのこ文庫に置いています。そういうものを利用してコミュニケーションがとれたらいいかなと思います。私は活用しています。

(会 長) 井手委員、次どうぞ。

(井手委員) 本を選ぶ際にテレビ、インターネットの活用が多いというのを見ると、情報を得たいという保護者の存在をうれしく思います。そこで、図書館からのおすすめの本を、例えば月毎や半年毎などに保育園にいただけたら、保護者に配布できるのかなと思いました。保育園では、毎月学年ごとに、おすすめの本をおたよりの中で紹介しています。それと並行して、図書館にこういう本があるとわかるものがあれば、保護者と図書館を繋げることができるのかなと感じました。

(会 長) インターネットの情報は一般的なものとなっていますが、それとはまた違う、身近なおすすめの本、そういうところからやってもいいと思います。また、先ほど草野委員が言われた冊子ですが、そういったものを取り入れるのも大事じゃないかなと思います。他にご意見は、はい、村山委員どうぞ。

(村山委員) 良い本と言われる本がたくさんあることは存じていますが、本というのはそれだけではないんです。他にも色々な本があるから、良い本だけを読んでおけばいいということではなくて、その先があるような気がしています。子どもによっても家庭環境によっても違いがありますし。良い本以外のものも、だんだん大事になってくるんじゃないかなと思います。良い本の紹介ルートからだと、画一的になってしまうのではないかなと思います。保護者も子どもたちも、発展的に自分で本を探していけるように導いていかないといけないのではないかなと思います。

(会 長) そうですね。入口はそこからであっても、次のステップ、そういうことではないかと思えます。今のご意見は大変貴重ですね。それでは次、【問6】以降です。事務局お願いします。

(事務局) 続いて「読み聞かせの開始時期、また、読み聞かせをしていない理由」に関して、【問6～7】、そして「市立図書館に行く頻度、また、市立図書館を利用しない理由」に関して【問8～9】です。

【問6】の「開始時期」の設問に対して、『生まれてから6か月』『7～11か月』が最も多く、0歳児健診やブックスタート事業が、このきっかけとなっていることが窺えます。

【問7】は【問2で、読み聞かせをしていないと回答された方】に、「していない理由」を尋ねたもので、回答総数は少ないものの、『忙しいから』『保育所等施設で読んでもらっているから』『自分で読んでいるから』が理由として挙げられ、これらから、親子のコミュニケーションの重要性や読んだ本の内容の理解度といった点を懸念するところです。

また、ここには直接出てきていませんが、昨今、スマートフォン等による絵本アプリや動画配信サービスの普及が気になることとあり、忙しい子育ての味方になる一面がある一方で、便利さゆえ、これらに頼りがちになることや子どもの健康への影響や依存を懸念するところです。私の経験からお話すると、紙の本による読み聞かせを通して、親の声とぬくもりを感じながら子どもは愛されていることを実感し、読み聞かせが終わったあとに親が子どもをほめたり認めたりすることで、子どもは絵本を好きになり、「もう一回読んで」とリクエストするようになりました。こうしたことの大切さをしっかりと伝えて行かなければならないのではと感じたところです。

続いて「市立図書館に行く頻度、また、市立図書館を利用しない理由」に関してと、最後に「自由記載としてご記入いただいた市立図書館へのご意見」についてです。

【問8】の「頻度」では、『市立図書館に行かない割合』が6割と、行く人より多くなっており、一方で『月に1～3回』『週に1～3回』の定期利用も2割程度見られる状況です。「市立図書館を利用される方が思いのほか少ない」と感じたところですが、【問4】の本の調達方法にもあるように、『借りずに買う選択』の他、身近な保育所等施設を活用することで、コロナ禍においてわざわざ図書館に足を運ぶ必要はなくなりますし、保育園では、絵本を手に取りやすい環境づくりの他、市立図書館からの団体貸出や除籍本のブック

リサイクルを活用しながら熱心に取り組を進められています。市立図書館としても利用を促すため、資料の充実はもとより、来館のきっかけとなるイベントの実施、読書の素晴らしさや魅力を発信し、もっと本を読みたくなるような働きかけについて、更に検討を深めていく必要があると考えています。

【問9】は、【問8】で市立図書館に行かないと回答された方に「利用しない理由」を尋ねたものであり、『借りずに買う選択』や『騒ぐといけないと思いが引ける』がほぼ同率で多いことを踏まえ、乳幼児連れの保護者が気兼ねなく図書館を利用できるようにするための仕組みづくり、例えば、「赤ちゃんタイム」の設定や現在コロナのため使用を止めている「こがめルーム」の利活用等を検討したいと考えています。

最後に、設問以外の【自由記載によるご意見】です。この内容は、皆様方にこの資料を先行発送した後に取りまとめたもので、今回初めて提示させていただく内容となります。

主な内容、また着目点としては、上段から

- ・図書資料の充実等では、おすすめ本の紹介を含め、本を手に取りやすくする工夫が求められていること。
- ・おはなし会等のイベントでは、会場や時間を含め内容の充実を。
- ・施設環境の整備及びサービス等の改善では、対応が難しいものもありますが、可能な限り利用者サイドに立った細やかな配慮が求められていること。
- ・その他では、コロナの影響が今も続いていることも含め、先にご紹介したような「親子連れが気兼ねなく利用できるようなしくみづくり」が求められていることがわかりました。

アンケートにご協力くださった皆様に厚くお礼を申し上げますと共に、これらをサービスや業務の改善に活かしていきます。以上が、乳幼児・その保護者からのアンケート調査結果の概況です。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会 長)

それでは【問6】から最後まで。そして、市立図書館へのご意見等のまとめ等も説明いただきました。読み聞かせをしていない理由として、読み聞かせの重要性はわかっているが、家事や仕事等での多忙感、保育所等で読み聞かせはしてもらっているからという気持ち、必要性はわかっているけれど、という部分が見えてきます。ただし、時間は少しでもいいから、直接言葉をかけながら、触れ合いながら読み聞かせをする重要性を忘れてはならないと思います。

ご覧のようにいろいろデータが出ています。市立図書館の利用という点での課題等も幾つか見えているようです。何かお気づきの点ありましたらどうぞ。

よろしいですか。特になければ、まとめの通りということだと思います。

では、乳幼児・その保護者についてはここまでで終わります。

次に、「小学生、中学生」に入ります。事務局お願いします。

(事務局)

別紙②をご覧ください。

ここでは、1問ずつ進めていきます。これは、「国立教育政策研究所」が、小学6年生と中学3年生を対象に、毎年設問を少しずつ変えながら実施している「全国学力・学習状況調査」の「読書に関する設問」と、参考までに「ゲームをする時間の設問」に対する結果を、経年変化、福岡県や全国の平均値と比較しながら概況を取りまとめました。

初めに「読書に関する意識」に関して、【問1】です。「読書は好きか」の設問に対し、小学6年生の回答では、令和元年度、『好き』と『どちらかといえば好き』を合わせると74%となっています。前回調査の平成28年度では78%と、県や全国よりやや高かった割合が、元年度は同程度の水準まで下がったことがわかります。また、『好きではない』も4ポイント増加しており、これらの結果はちょっと気になるところです。

次に、中学3年生では元年度、『好き』と『どちらかといえば好き』を合わせると76%となり、前回の69%から増加し県や全国を上回る結果となっています。また、『好きではない』も8ポイント減少しており、良い傾向が窺えます。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会 長) 調査対象は小・中学生とも最高学年であり、とりわけ中学 3 年生には進路の課題や問題もあります。そういった背景も考えながら見ていただければと思います。
はい、村山委員どうぞ。

(村山委員) 平成 28 年度調査対象であった小学 6 年生は、令和元年度調査の中学 3 年生に当たります。この子ども達は小学 6 年生のとき、「好き・どちらかかといえば好き」が 78.3%とかなり高いんです。それが中学校に進むとどれだけ減ってるかというところと 75.7%で 3 ポイント減です。学校現場において「全国学力・学習状況調査」結果というのは、0.1%でも下がると学校職員は非常に心配し、ちょっとした数字の違いに一喜一憂しながら子ども達を指導しています。そうすると、この減り方は大きいと考えるべきではないかと思えます。

(会 長) 同じ調査対象における 3 年後の比較ですね。そういう見方からすると、結構減っているのではないかなと思います。一喜一憂することはないにせよ、どこにどういう課題があるのかというのは考えていく必要があるとは思えます。
その他、何かありますか。では、次の説明をお願いいたします。

(事務局) 続いて「読書時間」に関して、【問 2】です。「1 日当たりの読書時間」では、小学 6 年生の回答では『10～30 分』が最も多く、『30 分～1 時間』『10 分未満』と続いている状況から、1 日に短時間でも読書をする習慣が身につけている児童が 7 割を超えています。一方で『全く読書をしていない』割合が増加傾向にある点は気になる点です。この不読率について、県や全国と比較すると、古賀ではこれらを上回る状態が続いていますが、「元年度に減少していた県や全国平均も増加に転じた」ことを見ると、背景には社会的な要因、例えば新型コロナウイルスによる臨時休校やスマートフォンの普及などが影響しているのではないかと考えられます。

次の中学 3 年生では、こちらも 1 日に短時間でも読書をする習慣が身につけている生徒が 6 割を超えています。一方、不読率ですが、小学生では 28%だったのが中学生では 34%に増加、更に県や全国共に小学生より増えていることを見ると、中学生になるとやはり部活動や家庭学習等の時間が増加し、読書時間の確保が難しい状況にあることが窺えます。また、古賀市、県や全国平均共に元年度は減少していたものが、先ほどの小学生と同様に増加に転じた点を見ると、こちらも社会的な要因が影響しているのではないかと考えられます。しかし、古賀市の場合、小学生と中学生の不読率の差が県や全国と比べ少ないことから、中学進学により読書から離れる割合は少ないことがわかります。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会 長) 読書時間と不読率のデータが出てきました。何かありましたらご意見を。
草野委員どうぞ。

(草野委員) コロナ渦になって読書ボランティアも「朝の読書」に行けなくなっているのですが、もしかして、今「朝の読書」の時間はなくなっているのでしょうか。例えば、10 分間でも毎日「朝の読書」の時間があれば、読んでいるというデータが出ると思うんです。「朝の読書」という取組は、読書の習慣化のために大事な事かなと思っています。現場の先生から教えていただけると助かります。

(会 長) 園委員さん、どうでしょうか。

(園委員) 学校ごとに取組はまちまちだとは思いますが、千鳥小学校では、朝の活動において、毎日朝の会の後に 10 分間「朝の読書」をするようにしています。このアンケート調査では「学校の授業時間以外に」ということですので、「朝の読書」の時間は反映出来ないところだと思います。

この他、子ども達が「この本すごくいいよ、先生」と言って、おすすめの本を見せて話

しかけて来ることも多いので、そんなに読書離れはしていないのではないかなと感じています。

アンケート全体を見てみると、学校の教育活動の中以外の時間、生活の中で、子どもは忙しく、家庭も様々で、家庭によってはそういう環境にあるのかということもあります。また、どこの学校でも季節ごとに読書週間等の行事をしており、読書をするという学校での取組は不易のものです。それが家庭にどれくらい響いて一緒に取り組んでいるかについて、家庭の意識を変えていく必要があるのかなと考えさせられました。

(会 長) 後から出てくるであろう「ゲームの時間」の設問とも関わりがあると思います。それも含めて、この後また協議したいと思います。それでは、次に進みます。

(事務局) 続いて、「図書館の利用状況」に関して、【問 3】です。「学校図書館や市立図書館にどれくらい行くか」では、小学6年生の回答では元年度、7割を超える児童が定期的に図書館に通い、『ほとんど行かない』が28%と最も多い状況ですが、わずかながら減少しています。また県や全国と比較すると、図書館に行く割合は古賀市が上回っていることがわかります。

次に、中学3年生では、小学生ほどではありませんが、生徒のほぼ半数が定期的に図書館に通い、『ほとんど行かない』が51%と最も多い状況ですが、減少しています。また県や全国と比較すると、小学生と同様に、図書館に行く割合は古賀市が上回っていることがわかります。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会 長) 図書館の利用状況については、古賀市の取組は、全国や県と比較してレベル的には高くなっているんじゃないかという分析です。これについて、いかがですか。

はい、村山委員どうぞ。

(村山委員) 第1回の会議で、教育長が、古賀市ではどの学校も熱心に読書活動を行っていて、色々な学校が賞を受けているとおっしゃっていました。また、今、園委員がお話されたように子どもたちは学校でよく読書をしていると思います。しかし、「学校や地域の図書館にどのくらい行きますか」という問いに対して、小学生の回答が『月に1~3回程度』が26%、『年に数回』が28%、『ほとんど行かない』が28%。つまり、自分の意思でそういうところに通ってないわけです。全て教育上の指導を受けているところで本を読んでいるわけです。そこが懸念される場所です。子どもたちはとても忙しくて、特に高学年は昼休みなどにも委員会活動などが入っていて、1日中休みなしに活動して、力をつけているんですよ。しかし、さっきも申しましたが、子ども達は自分の意思でというよりも計画された中で動いていて、成長はしていますが、自分で思い立って何かをするということが少ないんじゃないかと、このデータから思いました。これは、すごく重要ではないかと思っています。

(会 長) なるほど。学校生活の計画された中では、することができる。しかし、そういうことを踏まえても、自ら読んだり動いたり考えたり、忙しさとかいろんなことが重なって、そういったことが難しい部分があるという現実も見なくてはいけないという指摘だと思います。子ども達はきっと読書が嫌いとかではないと思うんです。しかし、中学生はもちろん、小学6年生でも自分から進んでということが難しい状況もあるのでは、という指摘だと思います。これは、学校全体としても、教育委員会としても考えていくことが必要ではないかと思います。が、1校だけ、また古賀市だけのことではないと思います。

はい、草野委員どうぞ。

(草野委員) 古賀市には非常勤ですが学校司書がいて、子どもたちが学校にいる間は学校にいてくれています。先ほど宇美町に視察研修に行かれたとお聞きしましたが、そちらの学校司書は、学校図書館に勤務しているけれど配属先は公共図書館だと聞いたことがあります。学

校司書と公共図書館が一体化している在り方というのは、子どもにとって大事なことだと思います。県内の他の地域では学校司書がいなかったり、いても司書資格がなかったりということを知ります。古賀市に学校司書が配置されていることは大きいことかなと思っています。

(会 長) そのとおりですね。私も、宇美町にはコロナ禍の前に学校司書や司書教諭の研修会で呼ばれて、3～4年ぐらい毎年行っていたんです。そのことを私も痛切に感じました。調べる学習コンクールという取組などから、非常に連携が取れ、よく話合いがされているということがわかりました。そういったことは大事だと思います。そういう意味では、学校司書が学校にいるということ自体が大きいなと改めて思います。

次に進みます。

(事務局) 続いて、読書とは直接の関係はありませんが、「全国学力・学習状況調査結果」の全体を見ていて気になった「ゲームの時間」の設問について、参考までに取りまとめてみました。

【問4】「1日あたり、どれくらいの時間ゲームをしますか」についてです。小学6年生の回答では、令和3年度は前回調査の平成28年度と比較して、大幅にゲームの時間が増えています。この5年間で情報化が進み、インターネットやスマートフォンの普及率が格段に進んだ背景はあるものの、この結果には驚きました。県や全国と比較しても古賀市が上回る状況です。

皆さん、「ゲーム脳」をご存知ですか。科学的な根拠は未承知ですが、長時間ゲームで遊ぶと前頭前野に影響を及ぼし、その状態で本を読んでも理解力が低下してしまうということだそうです。また、中学3年生でも、同様の傾向が窺えます。

このことから「メディアコントロール」と言われるように、ゲームやインターネットなどをする時間をコントロールしながら、望ましい生活習慣を作り、読書の時間を確保していく働きかけが重要と考え、このゲーム時間の調査結果を紹介いたしました。

最後に、次ページには各校が作成する「学校図書館要覧」調べとはなりますが、『児童生徒1人当たりの年間貸出冊数』の経年変化を記載しています。

ここでは、小学生が100冊程度、中学生が20冊程度の年間貸出数となっており、令和元年度、2年度と共に、新型コロナウイルスの影響による臨時休校期間があったにも関わらず、これ以前と比べて貸出冊数が大幅には減少していないことが確認できました。参考までに紹介いたします。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会 長) インターネットやスマートフォン等によってゲームする時間が大幅に増えている実情が見えてきました。目、視力、脳など、健康への影響等も言われているところです。学校では1人1台のタブレットを配布した学習が今後もさらに進んでいくと思います。電子メディアを目の前にする機会は増え、手放せない状況になっていくわけですね。そういう状況の中で、健康も考えながらコントロールしていく必要があります。自らコントロールしていく子どもを育てていかななくてはいけない。そういう状況の中での読書活動の推進になります。そこが一つの大きな視点・課題になると思います。今後の検討事項だと思います。

ここまで、何かお気づきの点あれば。

はい、草野委員どうぞ。

(草野委員) 読書をする時間において、私達は物語の中で主人公と一緒に旅をし、満足感を得ます。読書と比べるとゲームって物凄くスピード感があり、このスピード感には負けるなと思う時があります。どうしたら私達がそれに本やお話で対抗できるのかということ、生の力、対面でお話することしかないんです。私達は、常にゲームに勝る工夫を考えねばと思っています。最近では人が簡単に死ぬような映画を、家庭でも有料テレビで低学年の子がずっと見たりしていると聞きます。ボランティアする者として、私達は修羅場に置かれてい

と感じています。

先日、ある保育園でのことなのですが、絵本の貸出のところに生の野菜を置いていらっ
しゃって、何故かお尋ねしたら、絵本を貸出するだけではなくて現物を見せたいという配
慮だったんです。素晴らしい取組だなと思いました。

(会 長)

コロナ禍で、私も大学で遠隔授業をしていました。4月からは、是非やりたいと対面授
業を始めました。すると、当たり前ですが学生の目の輝きが違うんです。黒板を使うアナ
ログ授業をしていますが、学生にとってはそれが逆に新鮮なんです。生、対面というの
は、先ほど草野委員が言われたことにも繋がることだと思います。人と人の触れ合い、こ
れを改めて見直していかなくてはと思います。また、情報化社会はこれからも進んでいく
のですが、対面の大切さを絶対忘れてはいけない、取り戻すぐらいの迫力を持って対
応していくのが、我々大人の責任なのではないかという気がします。

ここについては以上でよろしいですか。では、高校生に話を進めていきたいと思いま
す。

(事務局)

それでは、最後に「高校生」となります。別紙③をご覧ください。

これは、市内の高校2年生を対象として、第3次計画策定時に調査した設問を基に、
今回は「電子書籍の利用状況」や「読書量を増やしていくためのアイデア」を加えて調査
しました。

まず【問1~4】まで進めます。初めは「読書に関する意識」に関して、【問1】です。
「読書は好きですか」の設問に対し、『好き』と『どちらかといえば好き』を合すると76%
となっています。前回調査した平成28年度は75%でしたので、ほぼ変わらず、また小・
中学生とほぼ一致した割合となっています。

次に、「本の選び方」に関して【問2】です。「どのような本を読んでいますか」では、
『ベストセラーや話題の本、テレビ等の原作本』『書店で気になった本』『好きな作家やジ
ャナルの本』『テレビ等で気になった本』が多く、学校や図書館以外の場所で情報収集し
ている様子が窺えます。

続いて、「本を読む場所」に関して【問3】です。「どのような場所で本を読みますか」
では、『自宅や友達の家』が最も多く、次に『教室』となっており、図書館等で読む割合
より多くなっています。

続いて、「学校図書館の利用状況」に関して【問4】です。「1か月間に、学校図書館に
何回行きましたか」では、『0回(利用していない)』が半数、次いで『月に1~2回』『月
に3~6回』と続き、前回調査と比較すると、『0回』が大幅に減少、『月に1~2回』『月
に3~6回』が増加していることから、学校図書館に定期的に通う生徒が増えています。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会 長)

ここでは、漫画・雑誌・新聞・教科書・参考書等を除いた紙媒体の本ということですね。
高校生のことで、森中先生、何かお気づきのことがありますか。

(森中委員)

現状をお話ししますと、3年生は進路が決まった子が本を借りに来ています。1・2年
生は、本を読むことが苦手な子は「何かおすすめ本はありますか」と聞いてきます。自分
では選べない子が割と多いかなと思っています。ただ、きっかけ作りをして、読書のコツ
をつかめば読書率は上がるのではないかなと思っています。

(会 長)

ありがとうございました。それでは事務局、次の説明をお願いします。

(事務局)

それでは「読書冊数、読書量の変化」に関して、【問5~7】です。「読書冊数」に関し
て【問5】の「1か月間に本を何冊読みましたか」では、全体の8割強が本を読み、この
内『1冊』が半数以上、『2~3冊』が2割と多くなっています。前回調査と比較すると『0
冊(読まなかった)』と『1冊』が増加した一方で、『2~3冊』以上が減少しており、ちょ
っと気になるところです。

次は、「幼少期からの読書量の変化」に関して【問6】の「小学校入学前から中学生、それぞれの時期にどれくらいの本を読んだか」の設問です。これは、高校生自身の主観、振り返りに基づく回答となりますが、『よく読んだ』『わりと読んだ』が最も多いのは『小学4～6年生』の時で、『よく読んだ』と『わりと読んだ』を合わせた読書量は小学校高学年まで増加し、中学生になると減少してしまうことがわかります。

やはり、中学生になると部活動や家庭学習等で忙しくなり、読書時間の確保が難しい状況にあるものと推測されます。

続いて、『高校生になってからの読書量の変化』に関して【問7】です。こちらも高校生の主観、振り返りに基づく回答となりますが、中学生の時と比べて高校生になってからの読書量は「読む時間」「本の量」とともに「減った」との回答がほぼ半数となっていますが、一方で「増えた」と回答した生徒が2割近くいることから、やはり幼少期からの読書習慣が形成されている生徒とそうでない生徒の差が、ここに現れてくることがわかります。

ここまでの部分について、ご協議をお願いいたします。

(会 長) 小さい頃からの読書活動、本に触れるという環境づくりを、私達は考えていかなければならないと改めて思います。ここままで何かありましたら、
草野委員どうぞ。

(草野委員) 本の情報をどこから得るか、どんな本を選んでいるのかという部分は、さすが高校生は多様に富んでいるな、成長しているのだなと感じました。

(会 長) 「第66回学校読書調査報告」の中に、今の学年になってから読んだ本という項目の一覧があります。学年ごと、男女別になっています。例えば、高校1年生男子のトップは『人間失格』なんです。この本は高校の他の学年や女子でも結構上位なのですが、かと思えばいろいろなシリーズ物や最近流行った本もあります。草野委員が言われたように、ジャンルの広い本を読んでいると感じます。古典と言われる書物も読んでいて、一方では新しい時代に合った本もニーズに即して読んでいるということもわかってきます。新刊を購入したり、そういったものを幅広く選択できるような環境づくりや、それらを伝える広報活動が大事だなと感じています。

他にありませんか。村山委員どうぞ。

(村山委員) 森中委員にお尋ねです。高校生は、どんなところで本を買っているか教えていただけますか。今、古賀市にはあまり書店がないのですが。

(会 長) もし情報があれば、森中委員お願いします。

(森中委員) 通学の途中とかで買ったりしているようです、帰りがけとか。あと、中古本販売の「ブックオフ」はよく聞きます。他にもネットで買ったとかいう子もいます。

(会 長) 他にありませんか。では次に参ります。

(事務局) 続きまして【問8】以降です。「読書時間」に関して【問8】の「1日当たりの読書時間」では、『10～30分』が最も多く、次いで『10分未満』『30分～1時間』『1～2時間』と続いています。また、詳しく中身を見てみると「短時間の読書をしている生徒」は『自宅・友達の家』『教室』で本を読み、勉強や部活動等で多忙な中、まとまった時間は取れなくても空き時間を見つけて読書に勤しむ様子が窺えます。

【問9】は、【問8で、読まなかったと回答された方】に「この理由」を尋ねたもので、『普段から本を読まないから』が最も多く、本を読む習慣が身につけていない生徒が多く、また『読みたいと思う本がない、どの本が面白いのかわからないから』等の回答から、興味関心に合う本が身近にないことを理由に本を読まない生徒が多いことがわかり

ます。

ここで補足となりますが、事務局では、電子書籍に関する設問を考える際、「高校生はそれほど電子書籍に触れていないのではないか」と考え、漫画や雑誌を含める中で、電子書籍の浸透具合等を見る設問とした経緯があります。結果として、ここまで浸透していることが今回の調査で明らかとなりましたので、これらを除いた形で調査を実施していれば、より実情がつかめていたと反省しているところです。

それでは、【問10】の「電子書籍を読んだ点数」では、『0点（読まなかった）』が4割となっている一方で、『読んだ』は6割となっており、電子書籍がある程度浸透していることがわかります。また、詳しく中身を見てみると、『10点以上読んでいる生徒』の内、『教室』で読んでいる生徒が半数を超え、また「紙の本」を読まず「電子書籍」だけ読んだ生徒が45%となっていました。

【問11】の「電子書籍による読書時間」では、『10～30分』『30分～1時間』が共に2割程度、『2時間以上』は5%いる状況で、「30分以上の読書内容」を紙の本と比較すると「電子書籍」の方が多くなっていることがわかりました。

【問12】の「古賀市の電子図書館の利用状況等」では、『利用したことがある』は残念ながら5%でしたが、『今後機会があれば利用したい』と回答した生徒が半数を超えていることから、先の【問10】の6割を超える電子書籍の利用率を考えると、今後利用拡大に向けた周知、高校生向けのコンテンツの充実などの働きかけが必要と考えられます。

最後に、「高校生の読書量を増やしていくためのアイデア」に関して、【問13～14】です。【問13】の「どのようにすれば、もっと学校図書館を利用したくなるか」では、リクエスト対応をはじめとする『図書資料の充実』が最も多く、次いで『図書館以外で、ゆっくりと読書できる場所の整備』や『図書館の開放的な雰囲気づくり』、そして『教室内文庫の整備』の順となっており、高校生が好む本などを手に取りやすく、また読みやすい場所等の環境を整えることが求められていることがわかりました。

【問14】の『どのようにすれば、もっと市立図書館を利用したくなるか』では、『高校生が好む本や電子書籍』といった「図書資料の充実」に加え、『高校生向けの本があることのお知らせ』『特集コーナーやおすすめの本の紹介』といった「読書へ興味を引き出すような情報の提供など効果的な働きかけ」が求められています。

また、『気軽に出入りできて、くつろげるような環境の整備』も求められていることがわかりました。

ここまでの部分について、ご協議をお願いします。

(会 長) 漫画・雑誌等も含めた電子書籍の利用は既に進んでいること、一方、3月にスタートした古賀市電子図書館については利用したい気持ちはあるが、もっと自分達好みの本を入れて欲しいと感じている、ということが見えてきます。

ここまでで何かお気づきの点はありますか。では先に進めます。事務局お願いします。

(事務局) 以上のとおり、今回のアンケート調査では、国が実施している「全国学力・学習状況調査結果」も活用しながら、子ども達の読書状況、読書に対する意識、またその変化等について、全体像や大まかな傾向を把握できたのではないかと考えています。今後、本日皆様方からいただいたご意見等を含め、更に結果を読み解き、子どもの読書活動推進のための具体的な取組み等の検討に活かしてまいります。

(会 長) ここまでで何かありませんか。
山森委員、どうぞ。

(山森委員) 全体を通したお話をいたします。
今年度、福岡教育事務所にて読書の研修会を開き、直方市立図書館の野口館長に本の魅力についてというお話をさせていただきました。小学生から中学生、高校生と、段々と読まなくなってしまうという実態があり、それはある意味どうしようもないことですよとい

う話もありました。私もそういうところがあるだろうと納得するところがあって、学年が上がるにつれて子ども達は忙しくなっていく、時間がないのに「読みなさい」というのは難しいわけです。だからと言って、読書の啓発をやめるわけではないのですが。しかし、いくら手を打っても難しい部分がある。ではどうするのかと言うと、小さいときにたくさん本に触れ、「読書は楽しい」という気持ちを持って成長したら、必ず本のところに戻ってくるから、という話を聞き、なるほどと思いました。今日のアンケートの中でも、保護者の方がせがまれた時しか読み聞かせできていない、その理由は忙しいからという意見に、私も同じように思うところがありました。野口館長も「子どもが本を読まない」という保護者からの相談を受けられるそうなのですが、「ご自身は読まれていますか」と聞くと、「いや私は忙しくて読んでいません」と答えられるそうです。「そこなんです。やはり家の人が楽しそうに読む姿を見せていたら、子どもは自然と読むようになりますよ」とおっしゃっていました。今日のアンケート結果からも、子どもにはもちろんですが、保護者の方にも手立てを打っていかねばと改めて感じました。

また、少し聞いたことがある程度なのですが、福智町の図書館「ふくちのち」は、館内でおしゃべりをしてもいいそうです。図書館を利用しない理由の回答に、子どもが騒ぐのが心配という声もあったので、参考になるのかなと思いご紹介させていただきました。

(会 長) まとめのご発言ありがとうございました。
では、次に進みます。「(3) 第4次計画のページ割の提案」です。事務局お願いします。

(3) 「第4次計画」のページ割(案)について

(事務局) 前回、9月に行いました第2回策定協議会におきまして、第4次計画の構成案についてご提案しました。本日これから提案いたします第4次計画のページ割案につきましては、12月9日に開催しました第3回のワーキンググループ会議にて提案し、了解を得たところでは、

今回は、具体的にページ割の案を作成しています。別紙④をご覧ください。全体で36ページの予定としています。第3次計画期間中5年間の成果と課題につきましては、「子ども読書活動の調査」や「親と子の読書活動等に関するアンケート調査」の結果をもとに、グラフなどを用いてわかりやすく表示する予定です。

また、今後の取組につきましても、前回は全て文章で表示していましたが、今回は表などを用いてわかりやすくまとめる予定です。あくまでも案ですので、今後変更する可能性もありますことご了承ください。何かご意見ありましたらお願いします。

(会 長) 文章よりも表やグラフ・図などを使い、わかりやすいまとめ方で今後の課題を出していきたいということです。特になければこの方向で進めます。
次は、「4 その他」です。事務局お願いします。

4 その他

(事務局) 事務局から、会議録の内容確認と、次回第4回の日程調整についてのお願いです。
まず、会議録につきましては、この公開に先駆け委員の皆様方には内容確認・校正をお願いしたく、毎回2名の委員に順番にご協力をお願いしております。今回は草野委員、森中委員をお願いいたします。会議録ができましたらお手元にお届けしますので、ご覧になって、必要に応じて訂正等していただき、ご署名後、お返しいただくこととなります。ご多用中とは存じますが、ご協力の程よろしく申し上げます。

次に、次回協議会の日程についてです。内容としては、「第4次計画本文の各章の原稿案」の協議となります。2月22日(火)もしくは18日(金)を考えています。皆様方のご都合いかがでしょうか。

(会 長) 学校のご都合などはいかがですか。

- (園委員) 18日は公用があります。22日は現在のところは大丈夫ですが、学校で確認が必要です。
- (会 長) みなさんはよろしいですか。それでは、2月22日(火)の開催ということで。場所や時間などはどうなりますか。
- (事務局) 開催は2月22日(火)とし、開始時間については今回と同様の午後2時から、場所も同じ第2委員会室を考えています。後日改めて通知いたします。よろしくお願いいたします。以上です。
- (会 長) 以降は事務局お願いします。
- (事務局) では、閉会のことばを文化課長よりいたします。
- (文化課長) 皆さん、本日はお疲れさまでした。ご協議ありがとうございました。
今回、とても成果のある調査活動を行ったと思っています。この結果を様々なところで活用していただき、さらにはこの計画に反映していけたらと思っています。今後ともご協力よろしくお願いいたします。
では令和3年度第3回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を終了いたします。ありがとうございました。